

CF2
3
07

官佛蘭西
法律書
訴訟法
八

明治七年四月刊行

權大内史箕作麟祥譯

第八卷

仙蘭

法律

類	政	法
屬	外	國
冊	八	三
函	十	三

訴訟法

文部省

27
Case 2
Shelf 1

CFD
3
07

教育博物館

佛蘭西
法律書
訴訟法第八

權大内史箕作麟祥 譯

○第五章 動產賣拂ノ事

第九百四十五條 民法第八百二十六條ニ循ヒ

遺物財産中ノ動産ヲ賣拂フ可キ時ハ第五卷

第八章ニ記レタル法式ニ循ヒ之ヲ賣拂フ可

第九百四十六條 其賣拂ハ遺物財産ニ管係ラ

佛蘭西訴訟法八

下篇第二章第五章

文部省

27
Case 2
Shelf 1

CF2
3
07

明治七年四月刊行

權大内史箕作麟祥譯

第八卷

法律
仏蘭

類政
外法
屬國
冊八
函十
西

訴訟法

文部省

教育博
物館印

佛蘭西
法律書
訴訟法第八

權大内史箕作麟祥 譯

○第五章 動産賣拂ノ事

第九百四十五條 民法第八百二十六條ニ循ヒ

遺物財産中ノ動産ヲ賣拂フ可キ時ハ第五卷
第八章ニ記シタル法式ニ循ヒ之ヲ賣拂フ可

第九百四十六條 其賣拂ハ遺物財産ニ管係ア

佛蘭西法律書 下篇第二章第五章 文部省

ル者ノ求メニ因リ初告裁判所ノ上席人ノ言
渡ニ循テ官吏之ヲ為ス可レ

第九百四十七條 目錄ヲ記スル時立會ヲ為ス

可キ權アル者五^リミアメートルノ距離内ニ

住居シ又ハ別段住所ヲ擇ミタル時ハ動産賣

拂ノ時之ヲ呼出ス可レ但シ其呼出狀ハ別段

擇ミタル住所ニ送達ス可レ

第九百四十八條 若シ動産賣拂ノ事ニ付故障

ノ起ル時ハ初告裁判所ノ上席人至急吟味ノ

法式ヲ以テ假リニ之ヲ裁判ス可レ

第九百四十九條 動産ノ賣拂ハ其所在ノ場所

ニテ之ヲ為ス可レ但シ之ニ及シタル言渡ア

ル時ハ格別ナリトス

第九百五十條 動産ノ賣拂ハ立會ヲ為ス可キ

者ノ出席シタルト否トヲ問ハス之ヲ為ス可

レ但シ出席ヲ為サル者アリト雖モ之カ為

メ別段其名代人ヲ呼出スニ及ハス

第九百五十一條 動産賣拂ヲ求ムル者ノ出席

シタルト否トハ調書ニ之ヲ記ス可レ

第九百五十二條 若シ遺物ノ動産賣拂ニ管シ

タル者丁年者ナラサルナク其者皆出席シテ
故障ノ起ルトナク且外ニ其賣拂ニ管スル者
ナキ時ハ前數條ニ記シタル法式ヲ用フルニ
及ハス

○第六章 幼者ニ属スル不動産ヲ賣拂
ノ事

第九百五十三條 幼者ニ属スル不動産ヲ賣拂
ノ可キノ言渡ヲ為スニハ其不動産ノ種類ト
其大略ノ價トヲ記シタル親族會議ノ決定ヲ
ルヲ必要トス

又幼者丁年者ト其不動産ヲ共通ニテ所有シ
且丁年者其賣拂ヲ訴フル時ハ必スシモ幼者
ノ親族會議ノ決定アルヲ必要トセス○此
場合ニ於テハ此卷ノ第七章ニ記スル所ノ法
式ヲ以テ其賣拂ヲ為ス可シ

第九百五十四條 裁判所ニテ親族會議ノ決定
ヲ許可スル時ハ其裁判所ノ裁判役一員ノ面
前又ハ別段任ヲ受ケタル證書人一員ノ面前
ニ於テ其賣拂ヲ為ス可キ旨ヲ言渡ス可シ
若シ其不動産數箇ノ裁判所ノ管轄地内ニ在

ル時ハ其賣拂ノ訴ヲ受ケタル裁判所ヨリ其各所ノ裁判所ノ管轄地ニテ其賣拂ノ事ヲ引受ク可キ證書人ヲ任シ又ハ其各地ノ裁判所ニ其賣拂ノ事ヲ托スル書面ヲ送ル可シ

第九百五十五條 賣拂ノ言渡書ニハ各不動産ノ附直段ト其賣拂ノ箇條トヲ記ス可シ○其附直段ハ幼者ノ親族會議ノ決定又ハ其不動産所有ノ證書又ハ其不動産ノ貸貸ノ公正ノ證書又ハ日附ノ慥カナル貸貸ノ私ノ證書又ハ此等ノ貸貸ノ證書ナキ時ハ地稅目錄ニ據

テ之ヲ定ム可シ

然レモ裁判所ニテハ其時ノ模様ニ因リ不動産ノ全部又ハ一部ノ評價ヲ為サシムルヲ得可シ

其評價ハ不動産ノ種類ト大小トニ因リ裁判所ヨリ評價人一員又ハ三員ヲ任シテ之ヲ為サシム可シ

第九百五十六條 裁判所ヨリ不動産ノ評價ヲ為ス可キトヲ言渡シタル時ハ其評價人其裁判所ノ上席人ノ面前又ハ其上席人ノ別段任

シタル治安裁判役ノ面前ニテ誓ヲ為シタル
 上其評價書ヲ記ス可シ但シ其評價書ニハ不
 動産ニ付テノ諸件ヲ委細ニ記入スルニ及ハ
 ス唯評價ノ大旨ノミヲ記入ス可シ
 其評價書ハ之ヲ裁判所ノ書記局ニ納ム可ク
 別ニ其寫ヲ渡スニ及ハス
 第九百五十七條 不動産ノ糶賣ハ糶賣ノ箇條
 書ニ從テ之ヲ為ス可シ但シ其箇條書ハ代書
 師之ヲ裁判所ノ書記局ニ納ム可ク若シ又證
 書人ノ面前ニテ其糶賣ヲ為ス可キ時ハ其證

書人其箇條書ヲ記シテ己レノ役所ニ納ム可
 シ
 其糶賣ノ箇條書ハ左件ヲ記ス可シ

- 第一 糶賣ヲ許ルス言渡書ノ大略
- 第二 不動産所有ノ證書ノ大略
- 第三 不動産種類並ニ其所在ノ地一團ト
 ナリタル不動産ノ名其不動産ノ方積ノ
 大略其双方ノ隣家ノ名
- 第四 糶賣ノ為スニ付テノ附ケ直段及ヒ
 糶賣ノ箇條

第九百五十八條 糶賣ノ箇條書ヲ裁判所ノ書記局又ハ證書人ノ役所ニ納メタル後左件ヲ記シタル貼附書ヲ印刷ス可シ

第一 糶賣ヲ許ルス言渡ノ大略

第二 不動産ノ所有スル幼者其後見人後見人ノ監察者ノ姓名職業住所

第三 糶賣ノ箇條書ニ記シタル如キ不動産ノ模様ノ記載

第四 各不動産ノ賣拂ニ付テノ附直段

第五 糶賣ノ日刺及ヒ場所並ニ其糶賣ヲ

證スル證書人ノ姓名住所又ハ其糶賣ヲ為ス裁判所ノ名且何レノ場合ニ於テモ賣主ノ代書師ノ姓名

第九百五十九條 糶賣ヨリ少クトモ十五日前多クトモ三十日前ニ第六百九十九條ニ記シタル場所ニ貼附書ヲ出シ且雜費ヲ證スル證書人ノ役所ノ門戸ニ其貼附書一通ヲ出シ同條ニ記シタル如ク其貼附ヲ為シタルヲ證ス可シ

第九百六十條 前條ニ記シタル期限内ニ其貼

附書ノ寫ヲ第六百九十六條ニ記シタル新聞紙ニ記入シ且不動産所在ノ地ニ非サル郡ニ於テ其糶賣ヲ為ス時ハ其糶賣ヲ為ス郡中ノ別段定メタル新聞紙ニモ亦之ヲ記入ス可シ此等ノ事ヲ為シタル旨ハ第六百九十八條ニ記シタル如ク之ヲ證ス可シ

第九百六十一條 糶賣ニ為ス不動産ノ種類ト大サトニ准シ第六百九十七條及ヒ第七百條ニ記シタル如ク其糶賣ノ旨ヲ更ニ公ケニ為ス可シ

第九百六十二條 幼者ノ後見人ノ監察者ハ民法第四百五十九條ニ記シタル如ク糶賣ノ時立會ヲ為スタメ呼出ヲ受ク可シ但シ之カ為メ糶賣ノ日刺ト場所トヲ一月前ニ其監察者ニ報告レ且其者ニ糶賣ノ時出席ノ有無ヲ問ハス糶賣ヲ為ス可キ旨ヲ報告レ置ク可シ
 第九百六十三條 糶賣ヲ為ス時其賣拂ノ附ケ直段ニテ賣入レントスル者ナキ時ハ裁判所ニ願書ヲ出レ裁判所ニ於テハ其附ケ直段ヨリ更ニ下直ニテ再ヒ之ヲ糶賣ニ出ス可キ旨

ヲ裁判役會議ノ室ニテ言渡スヲ得可レ但
 レ其再度ノ糶賣ヲ為ス可キ期限ハ裁判所ノ
 言渡ニ因テ之ヲ定ムル所ニシテ初度ノ糶賣
 ノ時ヨリ十五日以内ナルヲナカル可レ
 其再度ノ糶賣ヨリ少クトモ八日前ニ前數條
 ニ記スル如ク再ヒ貼附ヲ為レ且新聞紙ニ記
 入レテ之ヲ公ケニ為ス可レ

第九百六十四條 第七百一條第七百五條第七
 百六條第七百七條第七百十一條第七百十二
 條第七百十三條第七百三十三條第七百三十

四條第七百三十五條第七百三十六條第七百
 三十七條第七百三十八條第七百三十九條第
 七百四十條第七百四十一條第七百四十二條
 ニ記レタル諸件ハ此章ニモ亦通シテ之ヲ用
 フ可レ

然レモ證書人其糶賣ヲ證スル時ハ別段代書
 師ノ世話ヲ要スルヲナク如何ナル人ト雖モ
 其糶賣ヲ為スヲ得可レ
 證書人ノ面前ニテ糶賣ヲ為ス時若シ買入人
 其代金ヲ直ニ拂フヲ能ハサルニ因リ買入人

、引受ヲ以テ更ニ糶賣ヲ為ス可キニ於テハ
 糶賣ヲ為ス者其旨ヲ裁判所ニ訴フ可レ
 此場合ニ於テハ證書人ヨリ買入人糶賣ノ箇
 條ノ如ク執行ハサル旨ヲ證スル受合書ヲ渡
 ス可レ然ル上ハ初度ノ糶賣ノ調書ヲ以テ更
 ニ糶賣ヲ為スノ憑據ト為スタメ之ヲ裁判所
 ノ書記局ニ納ム可レ
 第九百六十五條 糶賣ヲ為シタルヨリ八日內
 ニ如何ナル人ト雖モ第七百八條第七百九條
 第七百十條ニ記スル所ノ法式ト期限トニ從

ヒ其買入直段ヨリ更ニ其六分一ヲ増シタル
 價ニテ買入レント求ムルヲ得可レ
 前項ノ求メニ因リ復々糶賣ヲ為シタル後ハ
 其不動産ヲ更ニ復々糶賣ニ為ス可カラズ
 ○第七章 遺物財産ノ分派及ヒ糶賣
 第九百六十六條 民法第八百二十三條及ヒ第
 八百三十八條ニ記シタル場合ニ於テ裁判ノ
 手續ヲ經テ遺物財産ノ分派ヲ為ス可キ時ハ
 遺物相續人中ニテ最モ先ニ手續ヲ為ス者其
 訴ヲ為ス可レ

第九百六十七條 同時ニ其訴ヲ為サントスル者二人アル時ハ裁判所ノ書記官ヲシテ最モ先キニ呼出狀他ノ遺物相續ノ正本ニ檢印ヲ為サシメタル者其訴ヲ為スノ權アリ但シ其檢印ヲ為シタル日刻ヲ附記シ置ク可シ

第九百六十八條 二人以上ノ幼者ノ權利相觸ル、時其各自ノ後見人ヲ任スル規則ハ第八百八十二條以下ノ數條ニ循フ可シ

第九百六十九條 別段ノ道理アル時ハ遺物財産ノ分派ヲ願フ訴ヲ裁判スル言渡ヲ以テ民

法第八百二十三條ニ循ヒ掛リ裁判役一頁ト證書人一頁トヲ任ス可シ

若シ分派ノ手續ヲ為ス間ニ掛リ裁判役又ハ證書人其手續ヲ為スニ故障アル時ハ裁判所ノ上席人訴人ノ願ニ因リ其代人ヲ任スルノ言渡ヲ為ス可シ但シ其言渡ハ之ニ付キ故障ヲ述フルコトヲ得ス又之ヲ控訴スルコトヲ得ス

第九百七十條 財産分派ヲ為シ得可キニ於テハ分派ノ訴ヲ裁判スル言渡書ヲ以テ其分派ヲ為ス可キコトヲ言渡シ又然ラサレハ糶賣ヲ

為ス可キトヲ言渡ス可レ但シ其糶賣ハ第九百五十五條ニ循ヒ裁判役ノ面前又ハ證書人ノ面前ニテ之ヲ為ス可レ
 裁判所ニテ分派ヲ言渡シタルト糶賣ヲ言渡シタルトヲ問ハス幼者ノ其訴ニ管係アル時ト雖モ預メ評價ヲ為サシムルトナク直ニ其分派又ハ糶賣ニ取掛ル可キ旨ヲ言渡ストヲ得可レ但レ糶賣ヲ為ス可キ時ハ第九百五十五條ニ循ヒ裁判所ニテ其附ケ直段ヲ定ム可レ

第九百七十一條 若シ裁判所ニテ評價ヲ為ス可キトヲ言渡ス時ハ評價人一頁又ハ三頁ヲ任シ其評價人第九百五十六條ニ記シタル如ク擔ヲ為ス可レ
 評價人ヲ任スルト及ヒ其申立ハ第三百二條以下ノ數條ニ記シタル規則ニ循ヒ之ヲ為ス可レ
 評價人ノ申立書ニハ評價ヲ為シタル大旨ヲ簡略ニ記ス可ク分派シ又ハ糶賣ニ為ス可キ財産ノ模様ヲ委細ニ記スルニ及ハス

分派ヲ訴ヘタル者ハ其代書師ヨリ他ノ者ノ
代書師ニ招書ヲ送ラシメ他ノ者ニ評價人ノ
申立書ヲ承諾スルヲ求ム可シ

第九百七十二條 其糶賣ニ付テハ前章ニ記シ
タル規則ニ循フ可シ但シ糶賣ノ箇條書ニハ
左件ヲ加フ可シ

第一 糶賣手續ノ訴ヲ為ス者ノ姓名住所
職業及ヒ其代書師ノ姓名住所

第二 共ニ糶賣ヲ為ス者ノ姓名住所職業
及ヒ其代書師ノ姓名住所

第九百七十三條 糶賣ノ箇條書ヲ裁判所ノ書

記局又ハ證書人ニ預ケタルヨリ八日内ニ糶
賣手續ノ訴ヲ為ス者其代書師ヲシテ與ニ糶
賣ヲ為ス者ノ代書師ニ招書ヲ送ラシメ其糶
賣ノ箇條書ヲ檢視ス可キヲ要ム可シ
若シ其糶賣ノ箇條書ニ付キ故障ノ起ル時ハ
別段願書ヲ出スニ及ハス唯一方ノ代書師ヨ
リ他ノ一方ノ代書師ニ招書ヲ送り裁判所ニ
出席スルヲ要メタル上裁判所吟味ノ席ニ
テ之ヲ裁判ス可シ

其裁判所ノ言渡ハ第七百三十一條及ヒ第七百三十二條ニ記シタル規則ト定規トニ循ヒ之ヲ控訴スルヲ得可シ
 糶賣ノ箇條書ヲ檢視ス可キヲ一方ヨリ他ノ一方ニ要メタル後ノ手續ニ管シタル故障ニ付キ前項ニ記シタルヨリ以外ノ裁判言渡ハ之ヲ控訴スルヲ得ス又之ニ付キ故障ヲ述フルヲ得ス
 若シ糶賣ヲ為ス時其附ケ直段ニテ買入レントスル者ナキ時ハ第九百六十三條ニ記スル

如ク處置ス可シ
 何人ニ限ラス糶賣ヲ為シタルヨリ八日内ニ第七百八條第七百九條第七百十條ノ規則ニ循ヒ其價ノ六分ノ一ヲ増シテ買入レント要ムルヲ得可シ
 其價ヲ増シテ買入レントスルノ効ハ幼者ノ不動産賣拂ノ時ト同一ナリトス
 第九百七十四條 不動産所々ニ分隔シ各其評價ヲ為シタル時其各不動産ヲ分派ス可カラサルノ申立書アリト雖モ其申立書數通ヲ互

ニ見合ヒタルニ因リ不動産ノ全部ヲ分派スルヲ得可キ模様タル事分明ナルニ於テハ之ヲ糶賣ニ為スニ及ハス

第九百七十五條 死者ノ不動産ニ付キ之ヲ得可キ數人ノ權利既ニ定マリタル時其不動産ノ分派ノミヲ訴フルニ於テハ評價人其評價ヲ為シ民法第四百六十六條ニ記スル如ク其不動産ヲ區分シ且其管係アル者評價人ノ申立書ヲ承諾シタル上ニテ第九百六十九條ニ記シタル如ク別段任ヲ受ケタル掛リ裁判役

又ハ證書人ノ面前ニテ其區別シタル不動産ヲ關引ニ為ス可シ

第九百七十六條 其他ノ場合ニ於テ殊ニ裁判役ニテ評價人ヲシテ申立ヲ為サシムルトナク不動産ノ分派ヲ為ス可キトヲ言渡シタル時ハ糶賣手續ノ訴ヲ為シタル者共ニ分派ヲ為ス者ヲシテ別段定メタル日ニ掛リ證書人ノ面前ニ出テシムル招書ヲ送り其面前ニテ民法第八百二十八條ニ記シタル如ク各相續人其為ス可キ算計及ヒ返還ヲ為シ分派ス可

キ財産ノ合部ト各人ニ分派ス可キ部分トヲ
 定メ分派ノ前ニ先キニ引取ル可キ物アル時
 ハ之ヲ引取り又相續人中ノ一人ヨリ他ノ相
 續人ニ引渡ス可キ物アル時ハ其物ヲ定ム可
 シ
 又糶賣ヲ為シタル後數人ニ分派ス可キ部分
 ヲ平等ナラシムル為メ糶賣ノ代金ヲ遺物財
 産ノ全部ト相混同ス可キ時ハ亦前項ト同一
 ナリトス

第九百七十七條 掛リ證書人ハ其補佐ヲ為ス

證書人又ハ證人ノ立會ナクシテ自カラ其分
 派ノ事ヲ為ス可レ若レ分派ノ訴ニ管係アル
 者其代言人ヲ伴行シタル時ハ其代言人ニ與
 フ可キ謝金ヲ財産分派ノ費用ト為ス可カラ
 ス其本人ノ費用ト為ス可シ
 民法第百三十七條ノ場合ニ於テハ證書人
 分派ニ付テノ故障ト管係アル數人ノ申述
 ル所トヲ別ニ調書ニ記シ其調書ヲ裁判所ノ
 書記局ニ藏メ置ク可シ
 若シ掛リ裁判役分派ニ管係アル數人ヲ裁判

所吟味ノ席ニ出テシムルヲ言渡シタル時
 ハ其數人ノ出席ス可キ日ヲ指定メタルヲ以
 テ即チ其數人ニ呼出狀ヲ送達シタルニ等シ
 キ効アリトス
 故ニ掛リ裁判役ノ面前又ハ裁判所吟味ノ席
 ニ其管係アル數人ヲ別段呼出ス書面ヲ送達
 スルニ及ハス

第九百七十八條 民法第八百二十九條第八百
 三十條第八百三十一條ニ循ヒ證書人其分派
 ス可キ財産ノ合部ヲ定メ且遺物相續人中ノ

一人ヨリ他ノ者ニ返還ス可キ物及ヒ其中ノ
 一人分派ノ前ニ先キニ引取ル可キ物ヲ定メ
 タル上遺物相續人皆丁年ニシテ其中一人ヲ
 撰テ不動産ヲ區分セシメントシ其一人其務
 ヲ承諾シタルニ於テハ其物其不動産ヲ區分
 ス可シ若シ然ラサルニ於テハ別ニ手續ヲ為
 スニ及ハスニテ證書人其分派ニ管係マル數
 人ヲ掛リ裁判役ノ面前ニ出テシメ掛リ裁判
 役評價人ヲ任ス可シ
 第九百七十九條 不動産ヲ區分スル為メ遺物

相續人中ニテ別ニ撰ヲ受ケタル者又ハ別段
任ヲ受ケタル評價人ハ其不動産ヲ區分シテ
其中立書ヲ記ス可シ但シ其申立ハ證書人之
ヲ受取テ此迄為シタル諸事ヲ記シタル調書
ノ末ニ記入ス可シ

第九百八十條 不動産ヲ區分シ且裁判所ニテ
其區分ニ付テノ争ヲ裁判セシ後是迄分派ノ
手續ヲ為シタル者共ニ分派ヲ受クル者ヲシ
テ別段定メタル日ニ證書人ノ役所ニ出席セ
シムル招書ヲ送り此等ノ者ヲシテ其調書ヲ

成就スル時立會ハシメ且其讀上ヲ聽カシメ
又其者ヲシテ已レト共ニ其調書ニ姓名ヲ手
署セシム可シ

第九百八十一條 分派ノ手續ヲ為ス者ハ證書
人ヨリ分派ヲ調書ノ寫ヲ受取り裁判所ニ其
允許ヲ得ント願フ可シ又裁判所ニテハ掛リ
裁判役ノ申上ヲ聽キタル上嘗テ管係アル諸
人中ニ調書ヲ成就スル時立會ヲ為サハリシ
者アルニ於テハ此等ノ諸人ヲ皆呼出シテ其
分派ノ允許ヲ為ス可シ但シ其管係アル者ノ

中ニ檢事ノ保護ヲ受ケ可キ者アルハ裁判
所ニテ檢事ノ説ヲ聽ク可シ

第九百八十二條 分派ノ調書ヲ允許スル言渡
書ニハ掛リ裁判役又ハ證書人ノ面前ニテ區
分シタル不動産ヲ關引ニ為ス可キヲ記ス
可シ但シ掛リ裁判役又ハ證書人ハ關引ノ後
其區分シタル部分ヲ引渡ス可シ

第九百八十三條 裁判所ノ書記官及ヒ證書人
ハ分派ニ管係アル者ノ求メニ循ヒ分派ノ調
所ノ全部又ハ一部ノ寫書ヲ渡ス可シ

第九百八十四條 幼者又ハ其他民權ヲ行フ可
カラサル者其他人ト共通シテ所有スル不動
産ヲ分派シ又糶賣ト為スニ付テハ亦前數條
ニ記スル所ノ規則ニ循フ可シ

第九百八十五條 共ニ不動産ヲ所有スル者又
ハ共ニ不動産ヲ相續ス可キ者皆丁年ニシテ
民權ヲ行フヲ得可ク且自カラ立會ヲ為シ
又ハ名代人ヲシテ立會ヲ為サレムル時ハ別
段裁判ノ手續ヲ經テ分派ヲ為シ始メタル時
ト雖モ分派ヲ止メ相協議スル所ニ循ヒ隨意

ニ分派ヲ為スヲ得可シ

○第八章 遺物財産ノ價ニ至ル迄ノ外
負債ヲ償ハサル特權

第九百八十六條 遺物ヲ相續ス可キノ權アル者其相續ヲ為スヨリ承諾スル前ニ民法ニ循ヒ遺物財産中ノ動産ヲ賣拂ニト欲スル時ハ其相續ヲ為ス地ヲ管轄スル初告裁判所ノ上席人ニ其旨ヲ願フ書面ヲ出ス可シ其賣拂ハ動産賣拂ノ定例ニ循ヒ貼附ヲ為シ及ヒ公ケニ為シタル上ニテ官吏之ヲ為ス可シ

シ

第九百八十七條 遺物財産中ノ不動産ヲ賣拂フ可キ時ハ遺物財産ノ價ニ至ル迄ノ外負債ヲ償ハサルノ特權アル相續人其相續ヲ為ス地ヲ管轄スル初告裁判所ノ上席人ニ其旨ヲ願フ書面ヲ出ス可シ但シ其願書ニハ其不動産ノ模様ヲ簡略ニ記載ス可シ○裁判所ノ上席人ハ其願書ヲ檢察官ニ送達シ其説ト掛ル裁判役ノ申立トヲ聴キタル上ニテ不動産賣拂ヲ許ス可シ且其附ケ直段ヲ定ムル言渡ヲ

為レ又ハ其賣拂ヲ為ス前裁判所ヨリ任シタル評價人ヲレテ其不動産ヲ檢視セシメ其評價ヲ為サシム可キ旨ヲ言渡ス可シ

裁判所ヨリ任シタル評價人ヲレテ不動産ノ評價ヲ為サシメタル時ハ相續人ノ願ニ因リ裁判所ニテ其評價人ノ申立書ヲ許ス可シ且檢察官ノ申立ヲ聽キタル上ニテ不動産ノ賣拂ヲ許ルス言渡ヲ為ス可シ

第九百八十八條 前條ニ記シタル何レノ場合ニ於テモ第九百五十三條以下數條ニ記シタル

ル規則ニ循ヒ不動産ヲ賣拂ヲ可シ

第七百一條第七百二條第七百五條第七百六條第七百七條第七百十一條第七百十二條第七百十三條第七百三十三條第七百三十四條第七百三十五條第七百三十六條第七百三十七條第七百三十八條第七百三十九條第七百四十條第七百四十一條第七百四十二條第七百四十四條第七百四十五條第七百四十六條第七百四十七條第七百四十八條第七百四十九條第七百五十條第七百五十一條第七百五十二條第七百五十三條第七百五十四條第七百五十五條第七百五十六條第七百五十七條第七百五十八條第七百五十九條第七百六十條第七百六十一條第七百六十二條第七百六十三條第七百六十四條第七百六十五條第七百六十六條第七百六十七條第七百六十八條第七百六十九條第七百七十條第七百七十一條第七百七十二條第七百七十三條第七百七十四條第七百七十五條第七百七十六條第七百七十七條第七百七十八條第七百七十九條第七百八十條第七百八十一條第七百八十二條第七百八十三條第七百八十四條第七百八十五條第七百八十六條第七百八十七條第七百八十八條第七百八十九條第七百九十條第七百九十一條第七百九十二條第七百九十三條第七百九十四條第七百九十五條第七百九十六條第七百九十七條第七百九十八條第七百九十九條

條ハ此章ニ記スル所ニモ亦通シテ之ヲ用フ可シ

遺物財産ノ價ニ至ル迄ノ外負債ヲ償ハサル
 特權アル遺物相續人此章ニ記スル所ノ規則
 ニ循ハスレテ不動産ヲ賣拂フ時ハ其特權ナ
 キ通常ノ遺物相續人ナリト看做ス可シ
 第九百八十九條 同上ノ特權アル遺物相續人
 其遺物中ノ動産及ヒ人ヨリ年金ヲ得可キノ
 權ヲ賣拂フ可キ時ハ此等ノ諸件ヲ賣拂フニ
 付テノ定則ニ循ヒ之ヲ賣拂フ可シ若シ其特
 權アル相續人其定則ニ循ハスレテ賣拂フ為
 ス時ハ其特權ナキ通常ノ遺物相續人ナリト

看做ス可シ

第九百九十條 遺物財産中ノ動産ヲ賣拂フテ
 得タル代金ハ第六百五十八條以下數條ニ記
 スル規則ニ循ヒ債主數人ニ之ヲ分派ス可シ
 第九百九十一條 又不動産賣拂ニ因リ得タル
 代金ハ債主ノ特權及ヒ書入質ノ權ノ順序ニ
 從ヒ債主數人ニ之ヲ分派ス可シ
 第九百九十二條 死者ノ債主及ヒ其他遺物財
 産ニ管係アル者遺物財産ノ價ニ至ル迄ノ外
 負債ヲ償ハサルノ特權アル相續人ヲシテ保

證人ヲ立テレメント欲スル時ハ其相續人又ハ其住所ニ其旨ヲ求ムル招書ヲ送ル可レ但シ其招書ハ裁判手續ノ法式ヲ用ヒサル書面タル可レ

第九百九十三條 此招書ヲ送達シタルヨリ三日ノ期限ト特權アル相續人ノ住所ト裁判所所在ノ邑トノ間三「ミリアメートル」毎ニ一日ヲ増シタル期限トノ内ニ其相續人保證人ヲ立ルニ付テノ法式第五百二十七條以下見合セニ循ヒ裁判所ノ書記局ニ其保證人ヲ立テタル旨ヲ申出

ス可レ

第九百九十四條 若シ死者ノ債主又ハ其他遺物ノ財産ニ管係アル者特權アル相續人ノ立テタル保證人ヲ承諾セスレテ故障ヲ述フル時ハ其債主又ハ其他遺物ニ管係アル數人ノ代書師中ニテ最モ先キニ其任ヲ受タル者其數人ノ名代人タル可レ

第九百九十五條 同上ノ特權アル遺物相續人ノ為ス可キ算計ニ付テハ第五百二十七條以下數條ノ規則ニ循フ可レ

第九百九十六條 同上ノ特權アル遺物相續人
 死者遺物財産中ヨリ己レノ貸シタル財産ヲ
 取還サントスルノ道理アルキハ遺物相續人
 ニ對シテ其訴ヲ為ス可シ若レ又其特權ヲ有
 スル相續人ノ外更ニ他ノ相續人ナキ時又ハ
 相續人數人アルト雖モ皆同上ノ特權ヲ有不
 ル者ニシテ且其數人皆死者ノ遺物財産中ヨ
 リ己レノ貸シタル財産ヲ取還サントスル訴
 ヲ為ス可キ時ハ其訴ノ被告人タル可キ遺物
 管財人一員ヲ別段裁判所ヨリ任ス可シ但レ

其管財人ヲ任スル法式ハ遺物相續人ノ虧欠
 シタル財産ノ管財人ヲ任スルト同一タカ可

○第九章 夫婦共通ノ財産ヲ拋棄スル
 事遺物ノ財産ヲ拋棄スル事、婦ノ嫁
 資ノ不動産ヲ賣拂フ事

第九百九十七條 夫婦共通ノ財産ヲ拋棄スル
 事又ハ遺物ノ財産ヲ拋棄スル事ハ夫婦財産
 ノ共通ヲ解除シ民法第四百五十三條見合ヒ又ハ遺物相
 續ヲ始ムル地ヲ管轄スル初告裁判所ノ書記

局ニ之ヲ届ケ其届ケノ旨ヲ民法第七百八十四條ニ記レタル簿冊ニ登記シ又民法第一千四百五十七條ニ循テ之ヲ設置ス可ク其他別段ノ法式ヲ為スニ及ハス

又民法第一千五百五十八條ニ記スル場合ニ於テ婦ノ嫁資ノ不動産ヲ賣拂ヲ可キ時ハ先ツ其旨ヲ裁判所ニ願ヒ裁判所吟味ノ席ニテ其賣拂ノ許可スル言渡ヲ得タル上之ヲ為ス可シ

其他ノ手續ニ付テハ第九百五十五條第九百

五十六條及ヒ其以下數條ノ規則ニ循テ可シ

○第十章 遺物相續人ノ虧欠シタル財産ノ管財人ノ事

第九百九十八條 遺物財産ノ目錄ヲ記シ且熟考ヲ為スルノ定期内ニ民法第七百九十五條見合ヒ遺物相續ヲ求ムル者出テ来ラヌ又ハ人ノ知ル所ノ遺物相續人ナク又ハ遺物ヲ相續ス可キ者アリト雖モ此等ノ者皆其遺物ノ財産ヲ拋棄シタル時ハ之ヲ遺物相續人ノ虧欠セシ財産ト為シ民法第八百十二條ニ循ヒ其財産ノ管

財人ヲ任ス可シ

第九百九十九條 若シ遺物相續人ノ虧負シタル財産ノ管財人二人以上ヲ任シタル時ハ最モ先キニ任ヲ受ケタル管財人一人其職ニ任シ其他ノ者ハ其職ヲ止ム可シ但シ此事ニ付テハ別段裁判所ノ言渡ヲ得ルニ及ハス

第一千條 其管財人ハ遺物財産ノ目錄ナキ時ハ最初ニ其目錄ヲ記シテ其遺物財産ノ模様ヲ證明シ且第九百四十一條以下數條ト第九百四十五條以下數條トニ記シタル規則ニ循ヒ

動産ノ賣拂ヲ可シ

第一千一條 又其管財人不動産又ハ人ヨリ年金ヲ得ルノ權利ヲ賣拂ハントスルニハ第九百八十六條以下數條ノ規則ニ循フ可シ

第一千二條 遺物財産ノ價ニ至ル迄ノ外負債ヲ償ハサルノ特權ヲ以テ遺物相續ヲ為ス者ノ為メ前ニ記シタル規則ハ相續人ノ虧負シタル遺物財産ノ管財人ニモ亦通シテ之ヲ用フ可シ

○第三卷 一千八百六十六年四月二十九日決定

五月九日布告

○一章 判斷人ノ事

第一千三條 何人ニ限ラス其自由ニ為スヲ得
可キ權利ニ付判斷人ノ判斷ニ任カスル契約
ヲ為スヲ得可シ

第一千四條 衣食住ノ生存中ノ贈遺又ハ遺囑ノ
贈遺ヲ得可キ事夫婦其財産及ヒ住居ノ分ツ
事離婚ノ事人ノ身分ニ管シタル事其他總テ
檢察官ニ報告ス可キ事ニ付テハ判斷人ノ判

斷ニ任スル契約ヲ為ス可カラズ
 第千五條 判斷人ノ判斷ニ任カスル契約ハ双
 方擇ミタル判斷人ノ面前ニテ之ヲ調書ニ記
 レ又ハ證書人ノ面前ニテ之ヲ公正ノ書面ニ
 記レ又ハ双方ノ姓名ヲ手署レタル私ノ證書
 ニ之ニ記ス可レ

第千六條 同上ノ契約書ニハ双方ノ争ノ所ノ
 事件ト判斷人ノ姓名トヲ記ス可レ若シ之ヲ
 記セサル時ハ其契約書ノ効ナカル可レ
 第千七條 同上ノ契約書ハ別段期限ヲ定メサ

ル時ト雖モ其効アリトス但シ此場合ニ於テ
 ハ判斷人其契約書ヲ記シタル日ヨリ三月ノ
 間其職務ヲ行フノ權アリトス

第千八條 判斷人其職務ヲ行フ時間ハ之ヲ擇
 ミタル諸人皆協議シタル上ニ非レハ其判斷
 人ノ職ヲ止ム可カラズ

第千九條 判斷ヲ受ク可キ者及ヒ判斷人其判
 斷ノ手續ヲ為スニ付テハ裁判所ノ為メ定メ
 タル期限ト法式トニ循フ可レ但シ判斷ヲ受
 ク可キ双方ノ者別段ノ期限及ヒ法式ヲ定メ

タル時ハ格別ナリトス

第千十條 双方ノ者判断人ノ判断ニ任カスル
 ノ契約ヲ為ス時又ハ其契約ヲ為シタル後ニ
 其判断ノ控訴為サ、ル旨ヲ定メ置クヲ得
 可シ

初告裁判所ノ言渡ニ服セスレテ之ヲ控訴ス
 ル為メ又ハ其言渡ヲ取消サントスル為メ第
 百八十條 判断人ノ判断ニ任カスル契約ヲ為
 シタル上ハ其判断人ノ言渡ヲ確定ノモノト
 為シ更ニ之ヲ控訴スルヲ得ス

第千十一條 判断人其吟味ヲ為ス手續ニ付テ

ノ書類又ハ其調書ハ各判断人之ヲ記ス可シ
 但シ双方本人判断人中ニテ別段定メタル一
 人ニ此等ノ書類ヲ記スルヲ任シタル時ハ
 格別ナリトス

第千十二條 双方ノ者判断人ノ判断ニ任カス

ル契約ハ左件ニ因テ其効ヲ失フ可シ

第一 判断人中ノ一人ノ死去スル事、其職
 ニ任スルヲ肯セサル事、其職ニ任シタ
 ル後他所ニ到ル事、判断人ニ差支アル事

但シ双方本人又ハ後ニ残りタル判断人
 随意ニテ其事故アル判断人ニ代ヘテ更
 ニ他ノ判断人ヲ任スルヲ定メタル時
 又ハ判断人中ノ一人ニ事故アリト雖モ
 後ニ残りタル判断人ノニニテ判断ヲ為
 ス可キヲ定メタル時ハ格別ナリトス
 第二 契約書ニ定メタル期限ノ終ル事又
 ハ其期限ヲ定メタルヲナキ時ハ三月ノ
 時間ノ経過シタル事
 第三 判断人二人ナル時其二人ノ説互ニ

相異ナルヲ但シ其二人ニテ其両説ヲ決
 定セシムル為メ別ニ判断人一人ヲ擇ム
 一ヲ得可キ時ハ格別ナリトス
 第千十三條 判断ヲ受ク可キ者ノ中一人死去
 スルト雖モ其相續人皆丁年ナル時ハ判断人
 ノ判断ニ任カスル契約ノ効アリトス但シ其
 相續人目錄ヲ記シ且熟考ヲナス為メノ期限
 間ハ判断人ノ吟味及ヒ判断ヲ猶豫ス可シ
 第千十四條 判断人其職務ヲ行ヒ始メタル上
 ハ其職ヲ止メ他所ニ至ル可カラズ○又双方

本人判断人ノ判断ニ任カスル契約ヲ結ビタル後起リタル原由アルニ非レハ其判断人ニ付キ双方本人ヨリ故障ヲ述フ可カラズ

第千十五條 双方本人ノ中一方ヨリ他ノ一方ノ書類ノ贋造タルヲ述ヘタル時又ハ其他何事ニ限ラス犯罪ニ管レタル附帯ノ訴ノ起リタル時ハ判断人双方ノ者ヲシテ裁判所ニ訴出セレメ其訴ノ裁判言渡アリシ時ヨリ判断ヲ為ス可キ期限ヲ算フ可レ

第千十六條 双方本人ハ判断人ノ判断ニ任カ

スル契約ノ期限ノ終ル時ヨリ少クトモ十五日前ニ其憑據書及ヒ證書類ヲ判断人ニ出シ判断人ハ此等ノ書類ニ據リテ其判断ヲ為ス可レ

判断書ハ各判断人之ニ姓名ヲ手署ス可レ若レ又判断人ノ數二人ヨリ多クシテ其中ノ半ハ以下ノ者判断書ニ姓名ヲ手署スルヲ肯セサル時ハ他ノ判断人其肯ヲ判断書ニ記シ置キ其判断書ハ各判断人皆其姓名ヲ手署シタルト同一ノ効アリトス

判断人ノ判断書ハ抗傳者ヨリ故障ヲ述フ可
カラス

第一千十七條 判断人二人ニシテ其說互ニ相異
ナル時別ニ他ノ判断人一頁ヲ擇ムトヲ得可
キニ於テハ双方其說ノ異ナル旨ヲ本人等ニ
言渡シテ別ニ他ノ判断人一頁ヲ擇ム可シ若
シ又之ヲ擇ムトヲ協議セサルニ於テハ其旨
ヲ調書ニ記シ判断書ノ執行ヲ言渡ス可キ初
告裁判所ノ上席人其別段ノ判断人一頁ヲ擇
ム可シ但シ双方本人ノ中一方ヨリ別段ノ判

断人一頁ヲ擇ム可キ旨ヲ其裁判所ノ上席人
ニ願フ書面ヲ出ス可シ
此ノ條ニ記シタル何レノ場合ニ於テモ說ノ
互ニ相異ナル判断人二人ハ一通ノ調書又ハ
別通ノ調書ニ其說ト其說ノ趣旨トヲ記ス可
シ
第一千十八條 別段ノ判断人ハ其職ヲ受クタル
ヨリ一月内ニ判断ヲ為ス可シ但シ其職ニ任
セラレタル書面ニ一月ヨリ更ニ長キ期内ニ
其判断ヲ為シ得キトヲ記シタル時ハ格別

ナリトス

又其別段ノ判断人ハ従前ノ判断人等ニ集會
ヲ為ス可キ、招書ヲ送り之ト評議シタル後
ニ非レハ判断ヲ為ス可カラス

若シ従前ノ判断人出席セサル時ハ別段ノ判
断人一人ニテ判断ヲ為ス可シ然レモ其判断
人ハ必ス従前ノ判断人中一人ノ説ニ従テ判
断ヲ為ス可シ

第千十九條 初メ任ヲ受ケタル判断人及ヒ別
段ノ判断人ハ双方本人ノ争ヲ法律ニ循ヒ判

断ス可シ但シ本人等ノ契約書ニ判断人ハ双
方ノ間ニ勸解ヲ為ス可キノ權アルコトヲ定メ
置キタル時ハ格別ナリトス

第千二十條 判断人ノ判断ノ言渡ハ其地方ヲ
管轄スル初告裁判所ノ上席人ノ言渡ニ因リ
之ヲ取行フコトヲ得可シ但シ之カ為メニ判断
人中ノ一人其判断ノ言渡ヲ為シタルヨリ一
日内ニ其言渡書ノ正本ヲ初告裁判所ノ書記
局ニ納ム可シ

又初告裁判所ノ裁判言渡ニ服セスコト判断

人ノ判断ヲ求メタル時ハ判断人ノ判断言渡書ノ正本ヲ控訴院ノ書記局ニ納メ控訴院ノ上席人其判断言渡ヲ執行ハシムル言渡ヲ為ス可シ

判断人ノ判断言渡書ヲ裁判所ノ書記局ニ納ムルニ付テノ費用及ヒ之ヲ官署ノ簿冊ニ登記スルニ付テノ税金ヲ償ハシム可キ訴ハ判断人ニ對シテ為ス可カラズ双方本人ニ對シテ之ヲ為ス可シ

第千二十一條 判断人ノ判断言渡書ハ縦令ヒ

預審ノ言渡ト雖モ裁判所ノ上席人ノ之ヲ許可スル言渡ヲ其裁判言渡書ノ正本ノ末又ハ端ニ附記シタル後ニ非レハ之ヲ執行ヲ可カラズ但シ判断人ノ言渡書ハ之ヲ檢察官ニ送達スルニ及ハス

又判断人ノ判断言渡書ノ寫ノ末ニモ亦裁判所ノ上席人ノ言渡ヲ附記ス可シ

判断人ノ判断言渡ヲ執行ノ事ヲ管轄スル權ハ之ヲ許可スル言渡ヲ為シタル裁判所ニ屬ス可シ

第千二十二條 判断人、判断言渡ハ其判断ヲ

受ケタル者、間ニ、其効ヲ生ス可ク其他

者ニ付テハ其効ナレトス

第千二十三條 判断人、判断言渡ヲ控訴スル

ニ付テ、規則ハ左ノ如シ

判断人ノ判断ヲ求メタル時、始審ト終審ト

ヲ問ハス當然治安裁判役、管轄タル可キ事

件ニ付テハ判断人、判断言渡ヲ初告裁判所

ニ控訴ス可シ

又、始審ト終審トヲ問ハス當然、初告裁判所

ノ管轄タル可キ事件ニ付テハ判断人、判断

言渡ヲ控訴院ニ控訴ス可シ

第千二十四條 裁判所、裁判言渡ヲ假リニ執

行フトニ付テ、規則ハ亦判断人、判断言渡

ニモ通シテ之ヲ用フ可シ

第千二十五條 判断人ノ判断言渡ヲ控訴シタ

ル上ニテ負訴訟トナル者ハ裁判所、裁判言

渡ヲ控訴シテ負訴訟トナル者ニ等キ罰金ヲ

言渡サル可シ

第千二十六條 判断人、判断言渡ニ付キ敬慎

願書第四百八十八條以下見合ヲ出スニ付テノ定期及ヒ其法式並ニ其願ヲ為シ得可キ場合ハ裁判所ノ裁判言渡ニ付キ同上ノ願書ヲ出シ得可キ時ト同一ナリトス
 同上ノ願書ハ控訴ヲ為スト同シキ裁判所ニ之ヲ出ス可シ

第一千二十七條 然レモ左ノ事ニ付テハ判断人ノ判断ニ付キ敬慎ノ願書ヲ出ス可カラス
 第一 判断ノ手續平常裁判所ニテ行フ所ノ法式ニ背キタル事但シ第一千九條ニ記

シタル如ク双方本人別段ノ契約ヲ為シタル時ハ格別ナリトス

第二 双方本人ヨリ判断ヲ求メサル事件ニ付キ判断人其判断ヲ言渡シタル事但シ此場合ニ於テハ後條ニ記シタル如ク其言渡ノ取消ヲ願フヲ得可シ

第一千二十八條 左ノ場合ニ於テハ判断人ノ判断言渡ヲ控訴スルニ及ハス又其言渡ニ付キ敬慎ノ願書ヲ出スニ及ハス

第一 双方本人判断人ノ判断ニ任カスル

契約ヲ為スヲナクシテ其判断言渡ヲ受ケタル時又ハ其契約アリト雖モ其契約ニ定メタルヨリ以外ノ事ニ付キ判断言渡ヲ受ケタル事

第二 双方本人判断人ノ判断ニ任カスル契約アリト雖モ其契約ノ効ナク又ハ其期限既ニ終リタル場合ニ於テ判断言渡ヲ受ケタル事

第三 判断人中ノ一人不在ナル時判断ヲ為ス可キノ任ヲ受ケタル者ニ非サル判

断人ノ判断ヲ為シタル時

第四 判断人二員ノ説互ニ相異ナリ之ヲ決定ス可キカ為メ更ニ別段ノ判断人一員ヲ任シタル場合ニ於テ其別段ノ判段人従前ノ判断人ノ説ノ問ハスシテ判段ノ言渡ヲ為シタル時

第五 双方本人判断人ノ判断ヲ求メサル事件ニ付キ其判断ヲ受ケタル時

總テ此等ノ場合ニ於テハ其判断人ノ判断言渡ノ執行ヲ承諾セサル者其言渡ノ執行ヲ命シタ

ル裁判所ニ判断言渡ノ取消ヲ訴出ス可シ
 判断人ノ判断言渡ヲ裁判所ニ控訴シ又ハ其
 言渡ニ付キ敬慎ノ願書ヲ裁判所ニ出シ其裁
 判所ノ裁判言渡ヲ得テ之ニ服セサル時ニ非
 レハ覆審院ニ訴出ス可カラス

總規則

第一千二十九條 總テ訴訟法ニ記スル無効ノ規
 則、罰金ノ規則、期限ノ規則ハ必ス之ニ循フ可
 シ

第一千三十條 總テ呼出狀及ヒ其他訴訟手續ノ
 書類ノ効ナキ旨ヲ別段法律上ニ定メタルコ
 ナキ時ハ其取消ノ旨ヲ言渡ス可カラス
 呼出狀及ヒ其他訴訟手續ノ書類ノ効ナキ旨
 ヲ別段法律上ニ定メタルコトナキ時ハ此等ノ
 書類ヲ取扱ヒタル者代書師使吏証書人其為

ス可ト手續ヲ怠リ又ハ規則ニ背キタルニ付
キ五「フラン」ヨリ少ナカラス百「フラン」ヨ
リ多カラサル罰金ノ言渡ヲ受ク可レ

第千三十一條 法律上ニテ効ナレトスル書類
又ハ益ヲ生セサル書類又ハ罰金ノ言渡ヲ受
クルノ原由タル書類ノ費用ハ其書類ノ取扱
人之ヲ擔當ス可ク且其取扱人ハ其時ノ模様
ニ因リ本人ニ損失ノ償ノ為ス可キノ言渡ヲ
受ク又ハ定期間其職ヲ罷ノラル可レ

第千三十二條 邑及ヒ公舎ハ裁判所ニ訴ヲ為

スニ付キ別段ノ行政法ニ從フ可レ

第千三十三條 〔千八百六十二年五月三日左ノ

如ク改ム〕初告裁判所ヘノ呼出狀治安裁判所
ヘノ呼出狀本人又ハ其住所ニ送達スル招書
及ヒ其他總テ本人又ハ其住所ニ送達スル書
類ニ付テハ其送達ノ日ト期限切レノ日トヲ
定期中ニ算入スルヲナカル可レ○定期ハ路
程五「ミリアメートル」毎ニ一日ヲ増ス可レ○
又民法或ハ商法ニ管シタル諸事ニ付キ法律
勅命言渡等ニ因リ路程ニ准レテ日數ヲ増ス

可キ時ハ亦前ニ記スル所ト等レトス○四「ミ
 リアメートル以下ノ路程ハ之ヲ算フ可カラ
 ス又四「ミリアメートル以上ノ路程アル時ハ
 定期ニ一日ヲ増ス可シ若シ期限ノ最終ノ日
 祭日ニ當ル時ハ期限ヲ翌日ニ延ハス可シ
 第三十四條 評價人ノ評價ヲ為ス時ハ立會
 フ可キノ招書又ハ二箇ノ訴訟ヲ混内ニテ一
 箇ト為スニ付テノ呼出狀第七百十九條見合セニハ其
 初度ノ評價ヲ為ス場所ト日刻又ハ初度ノ吟
 味ヲ為ス場所ト日刻トヲ記ス可ク第二次ノ

評價ヲ為シ又ハ第二次ノ吟味ヲ為スニ付テ
 ハ更ニ再ヒ其招書又ハ呼出狀ヲ送達スルニ
 及ハス

第三十五條 原告或ハ被告ヲシテ誓ヲ為サ
 シム可キ時又ハ保證人ヲ立テシム可キ時又
 ハ證人吟味ヲ為ス可キ時又ハ本人ノ問糺ヲ
 為ス可キ時又ハ評價人ヲ任ス可ト時及ヒ其
 他總テ裁判所ノ言渡ニ因リ或事ヲ為ス可キ
 時本人住所或ハ争ノアル場所ト其言渡ヲ為
 シタル裁判所ト大ニ隔リタルニ於テハ其言

渡ヲ為シタル裁判所ヨリ其時ノ模様ニ因リ
 其本人ノ住所或ハ其争アル場所ニ近キ裁判
 所ノ裁判役全負又ハ一負又ハ治安裁判役ニ
 其為ス可キ事務ヲ托シ又ハ本人ノ住所或ハ
 争アル場所ニ近キ裁判所ニ其裁判役中ノ一
 人又ハ治安裁判役ヲ擇ミテ別段其事務ヲ行
 ハシム可キ事ヲ托スルヲ得可シ
 第千三十六條 裁判所ニ於テハ訴訟吟味ノ時
 其模様ニ因リ一方本人ノ願ニ從ヒ或ハ裁判
 役ノ公務ヲ以テ訟庭取締ノ言渡ヲ為シ又ハ

一方ノ書類他ノ一方ノ名望ヲ害ス可シモノ
 タルニ因リ之ヲ棄滅スルヲ言渡シ且此等
 ノ言渡書ヲ刷行シテ之ヲ貼附ス可キ旨ヲ定
 ムルヲ得可シ
 第千三十七條 毎歲十月一日ヨリ三月三十一
 日ニ至ル迄ノ間ハ朝六時前ト夕六時後又四
 月一日ヨリ九月三十日ニ至ル迄ノ間ハ朝四
 時前ト夕九時後ニ裁判手續ニ管シタル書類
 ヲ送達ス可カラズ又裁判言渡ヲ執行フ可カ
 ラス○又祭日ニ於テハ其送達及ヒ執行ヲ為

ス可カラス但シ其送達及ヒ執行ヲ遅延スル
時危害アル可キ場合ニ於テ別段裁判役ノ允
許アル時ハ格別ナリトス

第千三十八條 確定ノ裁判言渡アリタル訴訟
ニ管セシ代書師ハ其言渡ヨリ一年內ニ其言
渡ヲ執行フ特別ニ本人ニ代ル可キノ權ヲ受
ケサルト雖ヒ當然本人ニ代テ裁判言渡ノ執
行ニ管ス可シ

第千三十九條 裁判手續ニ管シタル書類ヲ受
取ル可キノ任ヲ受ケタル官吏ハ無費ニテ其

受取リタル書類ノ正本ニ檢印ヲ為ス可シ
其官吏檢印ヲ為スヲ肯セサル時ハ其官吏
ノ住所ノ初告裁判所ノ檢事之ニ代テ其檢印
ヲ為シ之ヲ肯セサル官吏ハ檢事ノ申立ニ因
リ五フランクヨリ少ナカラサル罰金ヲ言渡
サル可シ

第千四十條 裁判役ノ管スル總テノ書類及ヒ
調書ハ裁判所所在ノ場所ニテ之ヲ記シ書記
官之ニ立會テ其書類ノ正本ヲ預リ置キ其寫
ヲ渡ス可シ又至急ノ場合ニ於テハ裁判役已

レ、住所ニテ其受取リタル願書ノ答ヲ為ス
トヲ得可シ但シ此場合ニ於テハ第八百六條
以下ノ至急吟味ノ規則ニ循フ可シ

第千四十一條 此訴訟法ハ千八百七一年一
日ヨリ之ヲ執行フ可シ故ニ其執行以後ノ訴
訟ハ此法ニ循ヒ之ヲ吟味ス可シ○其他訴訟
ニ管シタル従前ノ法律規則及ヒ習慣ハ之ヲ
廢ス可シ

第千四十二條 此訴訟法執行ノ前ニ裁判所費
用高ノ取極メノ為メ並ニ裁判所取締ノ為メ

行政規則ヲ設ク可シ

其時ヨリ遲クトモ三年内ニ其行政規則ヲ法
律ノ體裁ニ為シテ之ヲ議院ニ差出ス可シ

辻 士革 校

佛蘭西訴訟法八終

佛蘭西法律書訴訟法目次

第一

○上篇 裁判所ニ於テノ訴訟

○第一卷 自第一條至第四十七條 治安裁判所

○第一章 呼出ノ事

○第二章 治安裁判所ノ聽訟及ヒ双方ノ者ノ出席

○第三章 一方ノ者抗傳レテ言渡シタル裁判及ヒ其裁判ニ付キ故障ヲ述フル事

○第四章 財産占有ノ權ノ訴訟ノ裁判

○第五章 確定ニ非サル裁判言渡及ヒ其

執行

○第六章 保證者ヲ呼出ス事

○第七章 證人吟味ノ事

○第八章 土地ノ検査及ヒ評價

○第九章 治安裁判所ノ裁判役ニ付キ故

障ヲ述フル事

○第二卷 自第四百四十八條至第四百四十二條 下等裁判所

○第一章 勸解

○第二章 初告裁判所ニ呼出ス事

○第三章 被告人代言人ヲ任スル事及ヒ

被告人ノ答辯

○第四章 檢察官ニ報告スル事

○第五章 吟味ノ事、吟味ノ公ケナル事、吟

味取締ノ規則

○第六章 裁判役ノ評議及ヒ書面ニ因テ

吟味ヲ為ス事

○第七章 裁判言渡ノ事

○第八章 原告又ハ被告ノ一方抗傳シタ

ル儘ニテ裁判ヲ言渡ス事及ヒ其言渡
ニ付キ故障ヲ述フル事

第二

○第九章 訴訟ノ故障ヲ述フル事

○第一款 外國人ノ立ツ可キ保證ノ事

○第二款 裁判所ノ管轄異ナルヲ以テ

其裁判所ノ吟味ヲ受クルニ故障ヲ

述フル事

○第三款 呼出狀及ヒ其他訴訟手續ノ

書類ヲ取消ス可キ訴

○第四款 訴訟ノ猶豫ヲ求ムル事

○第五款 相手方ノ證書類ヲ受取ル事

○第十章 書類ノ驗真ヲ為ス事

○第十一章 書類ノ贋造タルヲ主タル

訴訟ニ添ヘ訴フル事

○第十二章 證人吟味ノ事

第三

○第十三章 裁判役自カラ訴訟ノ生レタ

ル地ニ至リテ検査スル事

○第十四章 鑑定人ノ申立

○第十五章 訴訟ノ本案ニ付キ本人問糺ノ事

○第十六章 附帶ノ訴訟

○第一款 附帶ノ訴訟

○第二款 他人主タル訴訟ニ管渉スル事

○第十七章 訴訟ノ再起スル事及ヒ更ニ代書師ヲ任スル事

○第十八章 本人其代書師及ヒ使吏ノ所為ヲ知ラスト述フル事

○第十九章 數箇ノ裁判所ノ管轄相觸ルル時其中ノ一箇ニ定ム可キトニ付テノ訴訟

○第二十章 裁判役一方ノ者ノ親族ナルニ付キ相手方ヨリ他ノ裁判所ニ訴訟ヲ移サント述フル事

○第二十一章 裁判役ニ付キ故障ヲ述フル事

○第二十二章 原告人定期ノ時間訴訟ヲ停止スルニ因リ其訴訟ノ手續ヲ取消

ト為ス事

○第二十三章 原告人故ラ其訴訟ヲ止ムル事

○第二十四章 急速吟味ノ法式

○第二十五章 商法裁判所ノ訴訟

第四

○第三卷 自第四百四十三條 控訴院

○一章 控訴及ヒ其手續

○第四卷 自第四百七十四條 裁判言渡ヲ取消
サントスル為メノ異常ノ方法

○第一章 原告及ヒ被告ニ非サル者ヨリ

裁判取消ヲ訴フル事

○第二章 敬慎ノ願書

○第三章 裁判役不正ノ裁判ヲ為シタル

ニ因リ損失ヲ受ケタル時其裁判ヲ取消シ其償ヲ得ントスルニ付テノ訴訟

○第五卷 自第四百七十一條 裁判言渡ヲ執行ヲ

事

○第一章 保證人ヲ承諾スル事

○第二章 損失償ノ高ヲ定ムル事

○第三章 利得、高ヲ定ムル事

○第四章 算還、事

○第五章 裁判費用、高ヲ定ムル事

○第六章 裁判言渡書及ヒ契約証書、如

ク強テ執行ハシムル事ニ付テ、總規

則

○第七章 負債者ニ人ヨリ物件ヲ渡ス

ヲ其債主ノ差留ル事

第五

○第八章 抵償トシテ動産ヲ差押フル事

○第九章 現在土地ニ生スル所ノ收納物

ヲ負債ノ抵償トシテ差押ユル事

○第十章 平民ヨリ渡ス可キ年金ヲ差留

ル事

○第十一章 差押ハタル物件ノ價高ヲ債

主數人ニ分派スル事

○第十二章 不動産ヲ抵償トシテ差押

ル事

第六

○第十三章 不動産差押ニ付キ附帶ノ訴

○第十四章 負債者ノ不動産ヲ差押ヘ之
ヲ糶賣ト為シテ得タル代金ヲ債主數
人ニ分派スル順序

○第十五章 負債者ヲ禁錮スル事

○第十六章 至急吟味ノ事

第七

○下篇 種々ノ訴訟手續

○第一卷 自第八百十二條
至第九百六條

○第一章 負債者債主ニ其債ヲ償還セン
ト提供スル事及ヒ其借高ヲ官署ニ預

クル事

○第二章 土地又ハ家屋ノ所有者其借主
ノ動産並ニ收納物ヲ質トシテ差押
ル事及ヒ他ノ地ヨリ來レル負債者ノ
動産ヲ質トシテ差押スル事

○第三章 自己ノ所有ナリト述フル動産
他人ノ手ニ在ルヲ取戻サントスル為
メ之ヲ差押スル事

○第四章 負債者其債ヲ償フカ為メ其不
動産ヲ賣拂フタル時債主更ニ高價ニ

之ヲ賣拂ハントスル為メ再ヒ之ヲ糶賣ニ為ス事

○第五章 證書類ノ寫書ヲ得ルノ手續又ハ證書類ヲ更改セシムル手續

○第六章 失踪者ノ財産ヲ假リニ所有ト為スニ付テノ規則

○第七章 婚姻ニタル婦訴訟ヲ為サント欲スル時裁判所ヨリ其訴訟ヲ為スノ允許ヲ受クル手續

○第八章 夫婦財産ヲ分ツ事

○第九章 夫婦居ヲ分ツ事及ヒ離婚ノ事

○第十章 親族會議ノ決定

○第十一章 治産ノ禁ヲ受クル事

○第十二章 負債者其債ヲ償フヲ能ハサル時其財産ヲ拋棄スル事

○第二卷 自第九百七條至第十二條 遺物相續ヲ始ムルニ

付テノ手續

○第一章 死者ノ財産ニ封印ヲ為ス事

○第二章 死者ノ財産ノ封印ヲ除去スルニ付キ故障ヲ述フル事

○第三章 死者ノ財産ノ封印ヲ除去スル事

○第四章 死者財産ノ目錄書
第八

○第五章 動産賣拂ノ事

○第六章 幼者ニ属スル不動産ヲ賣拂ノ事

○第七章 遺物財産ノ分派及ヒ糶賣

○第八章 遺物財産ノ價ニ至ル迄ノ外負債ヲ償ハサル特權

○第九章 夫婦共通ノ財産ヲ拋棄スル事

遺物ノ財産ヲ拋棄スル事、婦ノ嫁資ノ不動産ヲ賣拂ノ事

○第十章 遺物相續人ノ虧欠シタル財産管財人ノ事

○第三卷 自第三十三條至第四十二條

○一章 判斷人ノ事
總規則

佛蘭西訴訟法目次終

四九

法律書

文部省



